

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600466		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホームりんごの木		
所在地	帯広市新町西6丁目55		
自己評価作成日	平成 29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成 30年 3月 23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600466-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模なグループホームであることから、一人一人と寄り添い、その方自身への理解を深め利用者が生き活きと主体的に過ごせるよう役割のある暮らしや、希望に応じた外出や催し物の参加など楽しみを提供できるよう支援しています。同法人内の事業所と日常的に交流を図り、お互いの行事に参加するなど楽しみを場を広げるよう努めています。また、職員育成においては、幅広い視野や知識を広げるために、定期的に法人内の事業所と合同職員会議を行っています。地域との連携においては地域ケア理念のもと、地域の方に活用して頂き開かれた場所となるよう関係構築を目指しています。

当事業所は平成29年4月運営法人が変更し「グループホーム我が家」から、「グループホームりんごの木」に名称変更した。利用者及び職員はそのまま引き継いだため利用者は今までどおり安心して生活し幸せ感が漂っている。当法人は総合老人福祉施設を運営し、職員指導、教育も行き届き、合同職員会議を行って情報交換を綿密に行い事例を共有しながら質の高いケアに努めている。JR帯広駅に近い新興住宅地にあつて近くの帯広川河川敷の堤防は、桜や木々の緑を楽しみながらの散歩コースになっている。無落雪木造平屋建て全居室東南向きで明るく、共用空間は清潔で、温・湿度も適正に管理され、家庭的な雰囲気を利用者の表情は非常に明るく穏やかであり日々の共同生活の楽しさが滲み出ている。事業所理念の理解、利用者の立場を基本にした対応をしている。又、家族とは常に交信があり多くの感謝の言葉が寄せられている。町内会へ加入し、散歩、買物時などで近隣の方々と挨拶を交し運営推進会議、避難訓練にも地域住民が参加し常に密接な連携を保っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、施設理念を踏まえた事業計画を作成しその意義を共有しつつ事業の実践を行っている。ケア理念の意味合いを日々の関わりを通して意味合いを確認をし、職員周知を図っている	職員は事業所理念をよく理解し、利用者個人を尊重した対応に徹している。これは利用者の日々の幸せ感に表れている。ミーティングや申し送り確認、職員で共有してケアにつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し散歩時など声を掛け合うなど近隣住民との交流を図っている。また、近隣のスーパーへ出かけ地域とのつながりを感じる機会を持っている。	地域の一員として町内会に加入し、散歩時、買物等で挨拶して交流している。運営推進会議に地域住民の参加を得て事業所への理解を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時入所の相談を受けているが、その中で、入所のこと以外にも介護方法の相談や利用できる社会資源についてアドバイスを行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、地域包括支援センター職員、家族代表など参加し、2か月に1回運営推進会議を実施。利用者の生活の様子や行事のお知らせをしている。	2ヶ月に1回開催し、町内会会長、地域代表、地域包括支援センター職員、家族代表などが参加して、利用者の状況、活動状況などを説明し、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。議事録を作成し、運営推進会議の提言を日常的運営にその都度取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険担当者や生活保護課担当者とは相談、助言などを頂いている。また、運営推進会議に市内地域包括支援センター職員が参加し情報共有に努めている	市役所担当者とは、利用料や法的取り扱い等についての指導、助言、情報を得ている。運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、指導、助言、情報を得て協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に至る事例はない。研修に参加した職員からの内容等をミーティング等で職員間で共有することで知識向上に努めている	外部研修に参加して内部研修を行い、拘束をしないケアに努めている。今日まで施錠や身体拘束事例が無い。勿論、今後も考えていない。研修を通じて、職員間で意識の共有がなされてる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加した職員が研修報告を行い知識を深め周知を図っている。			

帯広けいせい苑グループホームりんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で話し合いの場を持ち、活用できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等について契約者、ご本人に十分な説明を行い理解同意を頂いてから契約を実施している。来所が困難な家族の場合は自宅に伺い説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは面会時や電話で直接の要望等をお聞きし、職員へ伝達したり、会議の際に報告等を行い反映に努めている	利用者の意見、要望は日常の会話から意向の把握に努め、家族とは、来訪時、運営推進会議参加時、電話連絡時、毎月日常の様子を写真などで伝え、意見、要望を聞いて運営に反映させている。家族との連携を密にしている事から苦情不満が見られない。利用者の表情からもそれが裏付けられる。他事業所に見られない特色である。現状は模範的である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で職員の意見を言える場を作っている。また、定期的に職員と面談を行い思いを聞く機会を作っている	毎日のミーティング、職員会議、職員との面談で意見、要望を話し合い、運営に反映させている。利用者服薬に関する誤薬防止について職員からの提言により個別管理の仕組みを簡単に改善工夫をして実践している。そうした日常的運営への参加姿勢が職員の意識向上へ繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、目標に対する評価を実施している。法人内の他施設の見学や体験を行い自分達の事業所の見直しの機会となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入している。個人の目標を上げ管理者と面談を行い、目標達成に向け援助をしている。日常業務の中で役割を与え、達成に向けた支援を行っている。又、様々な研修に積極的に参加し視野拡大に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、研修の参加や日常のつながりを通じ知識向上のため、情報交換等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面接を行い、家族などから生活歴などをお聞きし、関係作りに生かしている。事前に情報を職員間で共有し、安心できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な時間をかけ、家族からの要望や今までの暮らしをお聞きし、日常に活かしている。それぞれの今までの関係性を配慮し、家族の想いを大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の要望や本人が出来ることを把握し、今何が必要とされているかを考え対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の行動に対して常に何でだろうという気落ちを持ち、否定することなく利用者理解を深められるようケアをしている。出来る事、お手伝いがあれば出来ることを職員間で共有するよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を伝えるために写真を毎月送り様子を伝えている。また通院時には、引率職員かた電話で報告など体調面を細かに報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に家族、本人から聞きだし日常の中で話題にしたり、外出などを行い楽しみを提供している	利用者の生活歴を把握し、利用者の意向を尊重し馴染みの人等との連絡や面談等に積極的に便宜を図り馴染みの関係が途切れないよう支援している。懐かしい催事が有れば希望を適えている。映画、音楽や美術鑑賞。昨年は、高倉健の映画を見に行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同志と一緒に過ごす時間を大切にし、時には、職員が仲介するなど見守りしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談ごとは、訪問をしたり電話で確認を行い状況把握を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、表情から思いや意向の把握に努めている。常に利用者視点で支援できるよう職員間で共有している	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を引き継ぎノートに記録して共有し、希望や意向に添うよう支援している。常に利用者の現況把握をしながらその意向を尊重して対応出来る様に全職員の共有認識の中で支援している状態が認められる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族や本人に確認をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、小さな変化も伝え合うようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常や会議で気づきを大切にし、家族の想いも大事にし作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、日常的には日々の変化に応じて関係者協議のうえで医師、看護師の意見を聞き、会議等で話し合い、6ヶ月毎に介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や会議を通じ、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況の変化に応じすぐに対応できるよう努め、同法人事業所と協力をしながら実施している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員からのアドバイスを頂いたり、地域の行事や保育所との交流など地域へ参加する機会を多くし、協働できるよう努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人のかかりつけ医の受診時には、同行し日常を伝えるように取り組んでいる。また、都度家族へ相談、報告を行っている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診時には家族の同行が基本になっているが、希望により職員が同行し受診結果はその都度家族へ連絡し家族からは感謝されている。	

帯広けいせい苑グループホームりんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に体調面で気になる事を相談し、通院のアドバイスをもらっている。通院後の様子や薬の処方内容についても報告をし情報共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に入院はないが、そうした場合に備えて通院時に職員と情報交換を行い、関係作りを努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応の指針」に基づき説明をし同意を得ている。事業所として研修に参加し知識共有に努めている	入所時に利用者、家族に「重度化した場合における対応に係わる指針」に基づき説明し同意を得ている。看取り実施にあたり、本人又は家族に対し、医師から十分な説明を行って、本人又は家族の同意を得ることとしている。重度化や看取りは喫緊の避けて通れない課題と理解している。従って事業所として、日頃からこの課題へ取り組み、医師、看護師を初めチームワーク構築に努め職員の意識向上を図っている。特に、当直時の看取り対応の心構えを重視している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の中で気になっていることを職員会議で話し合い、緊急時に備えている。小さなことでも声にだしていくことを職員間で徹底している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。水害など大規模災害に備えマニュアルを作成し、職員に周知している。	消防署の指導を受け年2回火災を想定した避難訓練を実施している。事業所が帯広川に隣接している事から水害対応が求められる大きな課題である。母体法人がこの課題に積極的に対応して取り組んでいる。運営推進会議でも話し合い、町内会とも連携を密にしている。	隣接して帯広川があり、近年の気象状況から水害等が発生することも考えられる。母体法人において対策等立案進行中であるが、「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引き」(平成29年8月北海道保健福祉部)を参照し計画策定や見直しを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的な関わりにおいて、尊厳をもって接するよう心がけるとともに、安心感を大切にしている。	この課題は介護職員の基本姿勢で有る事から常に利用者へ接する時はその目線に立って対応している。又、個人の尊厳を損なわない様に常にプロ意識を持って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の想いを伝えやすい雰囲気作りに努めている。個人の希望を汲み取り、生活の中で充足感を感じられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の視点に立ち、支援するよう心掛けている。常に利用者の想いを大切にケアの提供に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを大切にしている。		

帯広けいせい苑グループホームりんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを行える方には一緒に行って頂いている。季節に応じたメニューを取り入れ、食べる楽しみに繋げている。	利用者は能力に応じて職員と一緒に配膳、後片付けを行ったり、食材購入に行っている。メニューには季節感を取り入れ、利用者の希望を入れて時どき外食に出かけている。毎食事に次の献立について話題にするなど食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所前に、生活習慣の把握を行っている。また、水分摂取量、食事量を記録し日々把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各居室に洗面台が設置されているため、食後にうがいや歯磨きを促している。個人の状況に応じお手伝いをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けや誘導等を行いトイレでの排泄を促している。	個々の排泄パターンを記録表や表情、態度などから把握し、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。9人中、6人が紙パンツ使用。時には失敗も有るがトイレ内で着替えを行い他利用者に判らない配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量の調整と、牛乳やオリゴ糖などを活用し予防に努めている。下剤が必要な方は医師に相談し調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をめぐりに声掛けをしている。入浴予定日に限らず希望に応じ対応をしている	週2回の入浴を基本としているが、希望によってはいつでも入浴できる。夏場には随時入浴をしている。幸い、入浴を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースや生活習慣を大切に、個人に応じた休息時間を大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者個人の薬の副作用など服薬内容を把握し、配薬しやすいようにセットをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中で、外出や買い物など楽しめる時間の確保に努めている。		

帯広けいせい苑グループホームりんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温かい時期は散歩や、希望に応じて買い物や催し物に参加など機会を多く作っている。	利用者の希望に沿って外出してる。暖かい時期には散歩や買い物に行ったり、家族との外出・外泊を支援し、日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得てから施設立替で対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族やなじみの方との関係を生活の中で大切にしている。そのため、利用者の希望に応じ家族へ電話をかけてお話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように室温に気を配っている。また、利用者の身体状況から安全に過ごせる様に努めている。季節に応じた飾りなど生活感を演出している	居間、食堂は一体的で、窓から陽が入り明るく、温・湿度も適正に管理され、清潔で、職員の創意工夫により季節に合わせた飾りつけをして、家庭的な雰囲気を利用者の表情も明るく穏やかで、日々の生活の楽しさが感じられ、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ってお茶を飲んだり、新聞を読むなど各自がくつろげるスペースを確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時になじみの家具を持ってきて頂いたり、家族との写真を飾ったり個人に合わせた居室作りを行っている。	居室には、ベット、使い慣れた家具などを持ち込み、家族の写真等を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。臭気が無い清潔感があり日頃から職員の意識の高さを表している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の身体状況や理解力の把握に努め、見守りや声掛け、一部介助を必要に実施している。		